

「ペムブロリズマブ+TC+BV 療法」について

この治療法は、子宮頸癌の代表的な治療法です。この治療ではペムブロリズマブとパクリタキセル(PTX)、カルボプラチン(CBDCA)、ベバシズマブ(BV)の4種類の抗がん剤が用いられます。

1. 投与方法

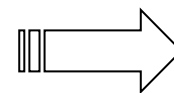
薬剤	効能または使用目的	投与時間
生理食塩液	点滴ラインの確保	—
ペムブロリズマブ	抗がん剤	30分
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	5分
ベバシズマブ	抗がん剤	90分※
デキサメタゾン+ ファモチジン+ クロルフェニラミン+ パロノセトロン	アレルギー予防 吐き気予防	15分
生理食塩液	時間調整	30分
パクリタキセル	抗がん剤	180分
カルボプラチン	抗がん剤	60分
生理食塩液	点滴ラインの洗浄	5分

※ベバシズマブは2回目60分、3回目以降は30分で点滴することもあります。

2. スケジュール

ペムブロリズマブ+TC+BV 療法は21日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日に抗がん剤を投与すると残りの20日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進んでいきます。

	1サイクル目		2サイクル目	
	1日目	2日目～21日目	1日目	2日目～21日目
投与日	○	—	○	—
休薬日	—	○	—	○



2. 特徴

●ペムブロリズマブ

作用: 免疫細胞の働きにより、抗がん剤作用を示します。

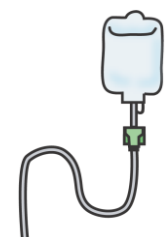
注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●パクリタキセル

作用: がん細胞が分裂する過程で作用し、抗がん作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

このお薬にはアルコールが含まれています。



(アルコールに対してアレルギーのある方はお申し出ください)

アレルギー予防の目的で副腎皮質ホルモン剤(デキサメタゾン)、
ヒスタミン H2 受容体拮抗薬(ファモチジン)、抗ヒスタミン薬(クロルフェニラミン)を事前に投与します。

●カルボプラチン

作用:がん細胞内の DNA と結合することで細胞分裂を止めて抗がん作用を示します。

注意事項:点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

●ペバシズマブ

作用:がん細胞への血管新生を抑制することで、酸素や栄養を届かなくする作用と、他の抗がん剤をがん細胞へ届きやすくする作用があります。

注意事項:点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。

4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思います。)

※ペムブロリズマブによる副作用は別紙をご参照ください。

脱毛

好発時期:2~3週間過ぎ頃から起こりやすくなりますが、治療終了後2~3ヶ月で回復し始めます。

対策:症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただくとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



しびれ (末梢神経障害)

末梢神経障害は抗がん剤が知覚神経や運動神経を傷害することで発症します。症状は手、足先から出てくることが多く、しびれ、感覚麻痺などが初期症状として出てきます。症状が進行すると筋肉に力が入りにくくなり、つまずきや転倒の原因にもなります。ほとんどの場合治療が終了すれば回復してきますが、時間がかかる(数ヶ月~1年)場合もあり、症状の強さに応じてお薬を処方することもあります。

好発時期:抗がん剤点滴終了後数日でも出ることがありますが、多くは5~6週目くらいから起こりやすくなります。

症状は軽いままで推移することもあります。徐々に強くなってくる場合もあります。

自覚症状としてはボタンがかけにくい、物を落とす、1枚膜を張ったよう、つまずきやすいなどです。

対策:早い時期に発見した方が回復も早いので、日ごろから注意してください。

症状があるときには刺激を与えないよう心がけてください。水を使うときには手袋を使用するなどです。

しびれの症状は我慢せず、しびれの強さや範囲、日常生活で困ることをお知らせください。

関節痛・筋肉痛

好発時期: 抗がん剤投与の2～3日後くらいに出てくる場合があります。

ただし、症状は軽く数日で回復する場合があります。

症状が辛い場合はお伝えください。

対策: 患部のマッサージで血流を改善するとよくなる場合があります。

強さによって痛み止めを処方することもできますのでお伝えください。

高血圧症

好発時期: 投与開始後4ヶ月以内の発症が多いようです。

対策: **自宅での定期的な血圧測定をお願いします。**

めまい、ふらつき、がまんできない頭痛と吐き気、けいれん、などの症状が出た場合はご連絡ください。

安静時にくり返しの測定をしても最大血圧が180mmHg または最小血圧が120mmHg を超える場合もご連絡ください。

出血傾向

好発時期: 投与初期に多い傾向がありますが、治療期間を通して可能性があります。

対策: **粘膜からの出血(鼻血、歯ぐきなど)が多いようですが**、通常は軽く、自然にまたは圧迫することで止まります。

(もし、10～15分くらいしても止まらない場合はご連絡ください)

傷口が治りにくくなる場合がありますのでケガなどには注意してください。

口から血を吐いたり、下血などが見られた場合は早めにご連絡ください。



爪への影響

好発時期: 治療開始後、数週間から数ヶ月の間に爪が変色したり、剥がれやすくなったりすることがあります。

対策: 一時的な場合が多く、注射が終了すれば次第に回復してきます。

爪は適度に切りそろえ清潔に保ちましょう。

痛みを伴ったり、出血や膿(うみ)が出るような場合はご相談ください。



血小板減少

血小板は血液を固まりやすくする働きがあります。血小板が少なくなると出血が止まりにくくなります。

好発時期: 抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

症状としては、**あざができやすい、鼻血などの粘膜からの出血が起きやすくなった**などです。

対策:ケガや転倒の危険性がある作業は避けてください。

歯ブラシは毛の柔らかいタイプを使うとよいでしょう。

食欲不振・味覚障害

好発時期:点滴終了後から数日間で起きてることがあります。

治療が終了すれば回復してきます。

嗜好の変化や味(甘味、塩味、苦味など)を感じなくなることがあります。

対策:食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。

口腔ケアによって味覚障害が予防できることがあります。口の中を清潔に保つよう心がけてください。

マウスウォッシュを使用する場合は低刺激性のものをお使いください(水でうがいしていただくだけでも効果はあります)。

白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる役割(免疫反応)があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期:抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

対策:細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時は**マスク**を着用してください。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。



吐き気・嘔吐

好発時期:治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、

症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。



対策:抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。

考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

多くの場合、予防目的で抗がん剤治療前に吐き気止めの点滴を行います。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンクなど)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低い(1%程度)ですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



アレルギー

好発時期:【パクリタキセル】 点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。多くはパクリタキセル点滴開始後2~3分以内であり、ほぼ30分以内に発生します。また、初めてパクリタキセルを点滴した時に発生することが多いです。

【カルボプラチン】 投与回数が増えると発生しやすくなると言われています。おおよそ8回程度の投与で発生しやすくなるようです。

自覚症状は、**息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹が出る、汗が出る**などです。

対策: 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまうこと(漏出)がまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどで、場合によっては血管に沿って症状が出てくるともあります。

好発時期: 点滴している間がほとんどですが、帰宅後にもし異常を感じたら早めにご連絡ください。

対策: 抗がん剤の種類によって対策が異なります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

※この他にも日常と違った症状が出た場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院
代表:TEL 028-626-5500